



中国の文化Ⅸ 第9回

隋唐時代

敦煌文書の世界

仏教の隆盛と敦煌文書の世界

南北朝時代、中原を支配した遊牧民族は、漢民族の高度な文明に対抗し、支配下の諸民族との共生を図るため、西域から東アジアへと新たな文明を伝えた。仏教である。

サンスクリット語の経典が東アジアの共通語(Lingua franca)である漢語に翻訳された結果、南北朝時代から隋、唐時代にかけて、東アジアに仏教という世界宗教が浸透していく。

仏教の伝来により、中国では「変文」という新たな庶民文芸が誕生した。一九世紀の末、シルクロードの仏教石窟から、この変文を含む数万点の古文書が発見された。「敦煌文書」である。

講義内容

第一節 隋唐時代

～異民族集団が開いた世界帝国

第二節 敦煌文書の発見

～よみがえる唐代の俗文学世界

第三節 王昭君変文はなぜ生まれたのか？

～民族融和のために生きた女性たち

第一節

隋唐時代

異民族集団が築いた世界帝国



北魏は都・平城を守るため、柔然との国境近くに鎮を置き、鮮卑族の諸氏族を配置した。しかし孝文帝が都を洛陽に遷すと、これに反対する諸氏族が反乱を起した。その中から武川鎮の諸氏族が台頭し、宇文一族は西魏を、その禪讓を受けた楊一族は隋を建国し、この隋を滅ぼした李一族によって唐王朝が誕生した。

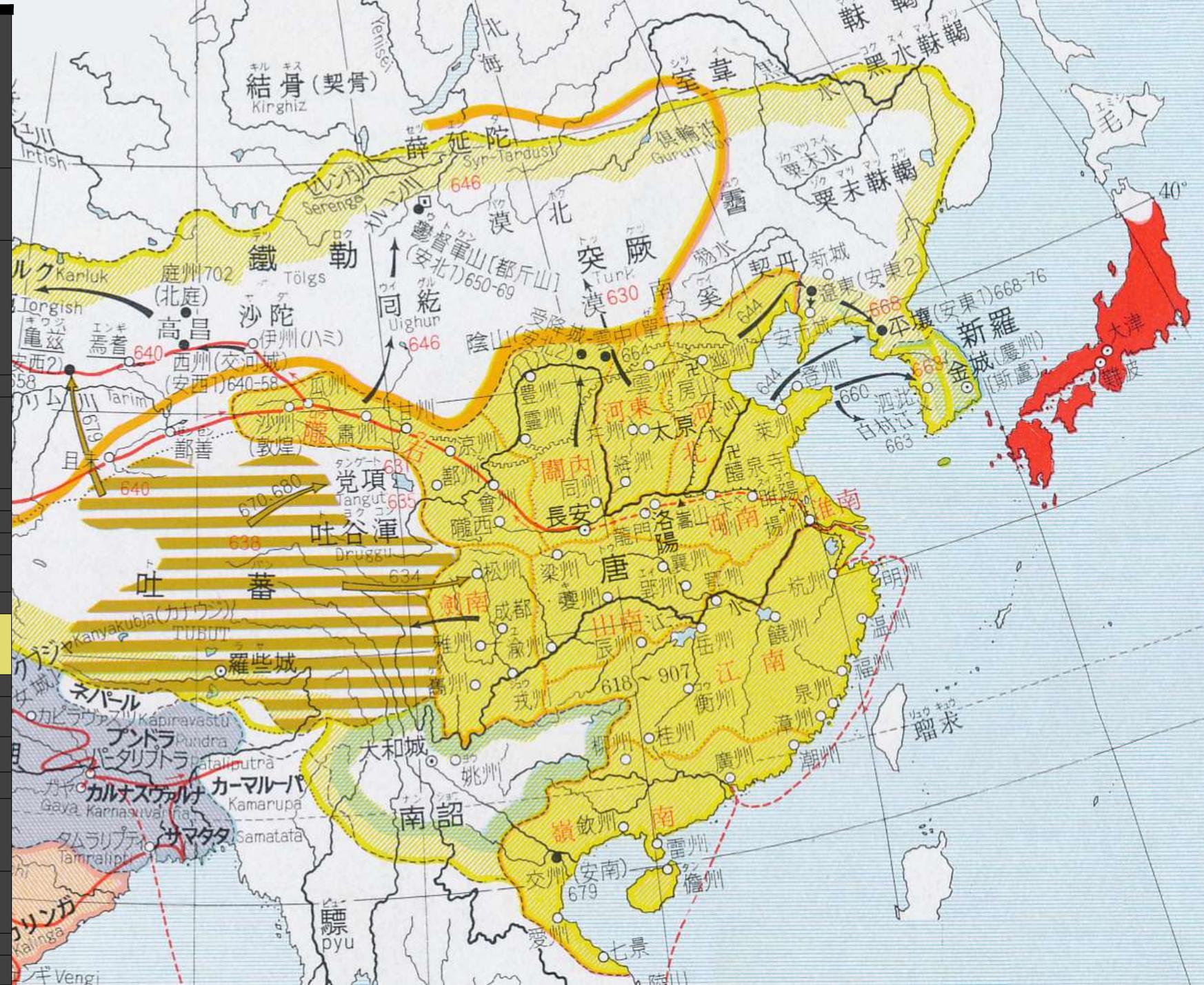
〔解説〕

隋・唐を建てた武川鎮の諸氏族



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
五胡十六国時代		東晋 9 317-420
北朝 439-589		南朝 420-589
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中华民国 1912-1949		
中华人民共和国 1949-		



隋唐王朝のルーツ

「東アジアの唐帝国は、カール大帝を出したフランク王国*に比較さるべきものである。」

宮崎市定『大唐帝国』

*西ゲルマン系のフランク人が建てた王国（四八六〜九八七）。ゲルマン民族大移動後の混乱を収拾して、キリスト教を中心とするヨーロッパの政治的・文化的統一を実現し、ドイツ、フランス、イタリアなどの諸国家の源流となった。



宮崎市定 (1901~1995)

ローマ共和制 前509～前31

ローマ帝国
前27～395

西ローマ帝国
395～476

ゲルマン民族の大移動
(4世紀末～6世紀末)

東ローマ帝国
395～1453

フランク王国
395～843



前漢
202BC～8BC

新 8BC～25AD

後漢
25～220

魏
220～265

蜀 221～
263

呉
229～280

西晋 265～316

五胡十六国
316～439

東晋
318～420

北魏
439～534

宋 420～479

齊 479～502

西魏
北周

東魏
北齊

梁 502～557

陳 557～589

隋 589～618

唐 618～907

隋唐王朝のルーツ

「漢王朝は中国人によって建設された大国家であるのに反し、唐帝国は北方から中国に侵入した異民族集団の発達線上にその起源が求められる。この点はまさしくフランク王国が、ゲルマン民族大移動の結果として生じた産物であると軌を一にする」

宮崎市定『大唐帝国』



宮崎市定 (1901~1995)

ローマ共和制 前509～前31

ローマ帝国
前27～395

西ローマ帝国
395～476

ゲルマン民族の大移動
(4世紀末～6世紀末)

東ローマ帝国
395～1453

フランク王国
395～843



前漢
202BC～8BC

新 8BC～25AD

後漢
25～220

魏
220～265

蜀 221～
263

呉
229～280

西晋 265～316

五胡十六国
316～439

東晋
318～420

五胡の侵入
北魏 (4世紀初～6世紀末)
439～534

宋 420～479

西魏
北周

東魏
北齊

梁 502～557

陳 557～589

隋 589～618

唐 618～907



第二節

敦煌文書の発見

よみがえる唐代の俗文学世界

変文

南北朝時代に中国に広まった仏教は、隋唐時代にその黄金時代を迎えた。

寺院では、仏の教えを文字を持たぬ庶民にもわかりやすく伝えるため、「変」と呼ばれる絵巻を示しながら、歌と語りを交えて語る絵解き講釈「変文」が人気を集めていた。

インドの絵解き芸人ボーパ

中国の絵解き講釈「変文」は、仏教とともに西域から伝わったと考えられている。

インド北西部のラージヤスタン地方には、いまも phad と呼ばれる絵巻を掲げながら、歌と語りによって、この地に伝わる英雄伝説を語る絵解き芸人ボーパが活動を続けている。

ラージヤスタン地方



親に孝行
子に慈愛
妻室極楽
一家繁榮

妻室
極楽

妻室極楽の徳
主行在家真如の妻室
宗室の七代親定は古
妻に孝行し百子萬孫
給ふ家門繁榮録
播磨西宮蓮華寺
宗室即ち宗室極楽
海土一統の徳也



撮影は
禁止

安珍清姫像

妻室

命工の由縁
講壇
宗室

執事
宗室

和歌山県道成寺の絵解き説法





和歌山県道成寺の絵解き説法

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 9 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

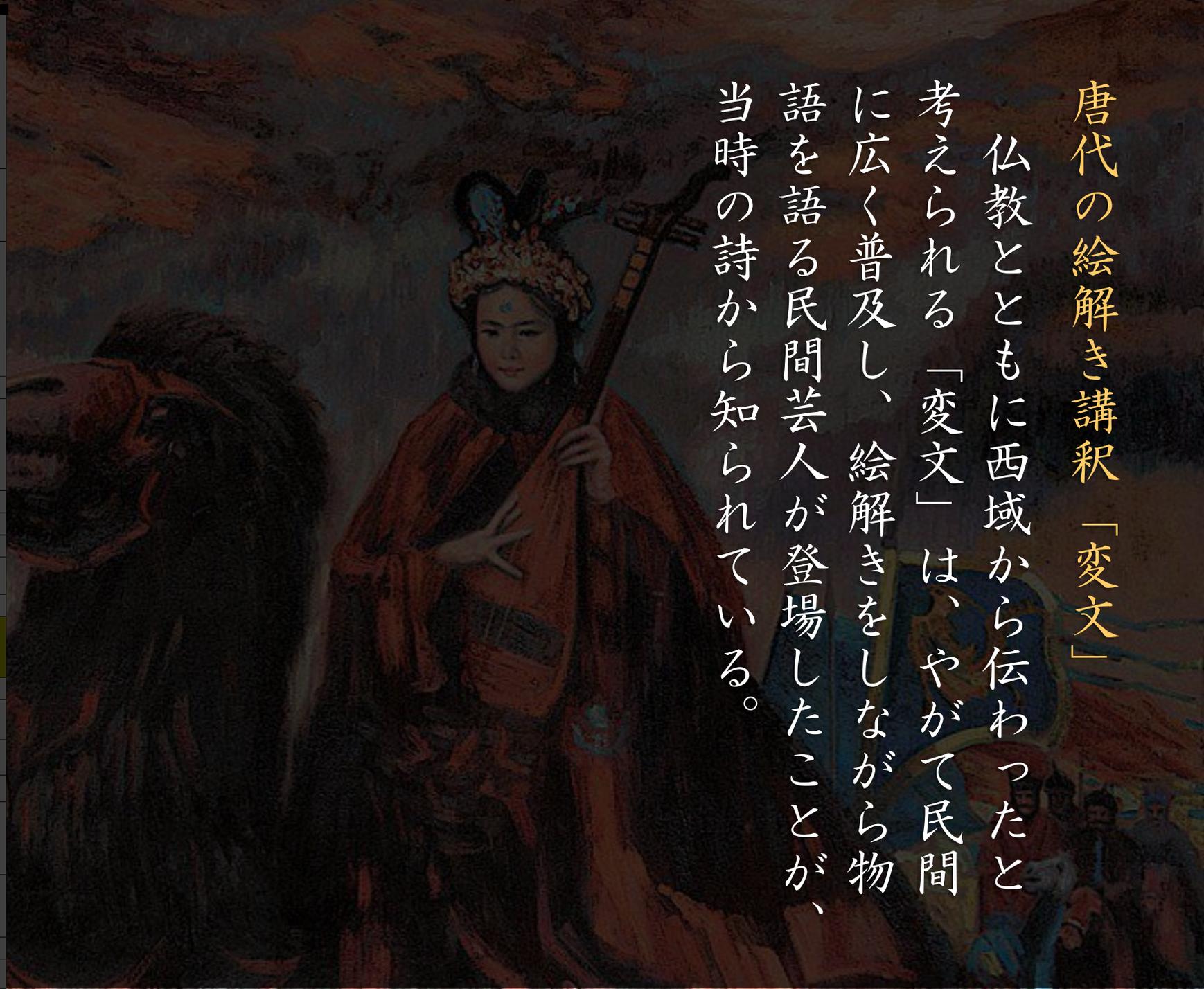
清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

唐代の絵解き講釈 「変文」

仏教とともに西域から伝わったと
考えられる「変文」は、やがて民間
に広く普及し、絵解きをしながら物
語を語る民間芸人が登場したことが、
当時の詩から知られている。



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

民間芸人が語る絵解き芸能「変文」

吉師老の詩「看蜀女転昭君変」



民間芸人が語る絵解き芸能「変文」

妖姬未著石榴裙
自道家連錦水濱
檀口解知千載事
清詞堪歎九秋文
翠眉顰處楚辺月
画卷開時塞外雲
説尽綺羅當日恨
昭君伝意向文君

(唐)吉師老「看蜀女転昭君変」(全唐詩卷七七四)

民間芸人が語る絵解き芸能 「変文」

妖艶な娘は

石榴のスカートもはかず

四川の錦水のほとりから

来たという

真っ赤な唇は

遙か昔の歴史を物語り

その歌詞は

九秋の文をも歎かせるほど

美しい眉をひそめて歌うは

楚のあたりの月

画卷を開けば

そこははるか辺境の雲

宮廷での思い出を語りながら

王昭君は卓文君*に思いを伝える

(唐)吉師老「看蜀女転昭君変」(全唐詩卷七七四)

*卓文君||前漢時代の蜀(四川省)の富豪の娘。若く

して夫に死別し実家に帰っていたが、そこで文人司馬相如と出会い、駢落ちして生活のために酒場を開くなどの苦労も重ねた。政略結婚のために身を捧げた王昭君とは対照的に、卓文君は恋に生きた中国古代の情熱的な女性の典型として知られる。

王昭君とは

〔解説〕

王昭君は、前漢の元帝（在位前四九～前三三）の宮女であった実在の人物。名は嬙、昭君は字。

紀元前三三年、和蕃降嫁*により匈奴の王に嫁いだことで、後世、変文、元雑劇、白話小説などの題材となった。

*和蕃降嫁：中国の王朝が、周辺の諸民族との和親のため、皇族や宮女を嫁がせる
政略結婚。

今生已矣尚待來生也（做跳江科）番王驚救不及



元雑劇「漢宮秋」挿絵

王昭君説話

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

匈奴が来朝し、王昭君を閼氏に迎える(BC33年)

王昭君変文(?)

元雜劇「漢宮秋」(13-14世紀)

雪樵主人『双鳳奇縁』(1809年刊)

元雜劇「漢宮秋」

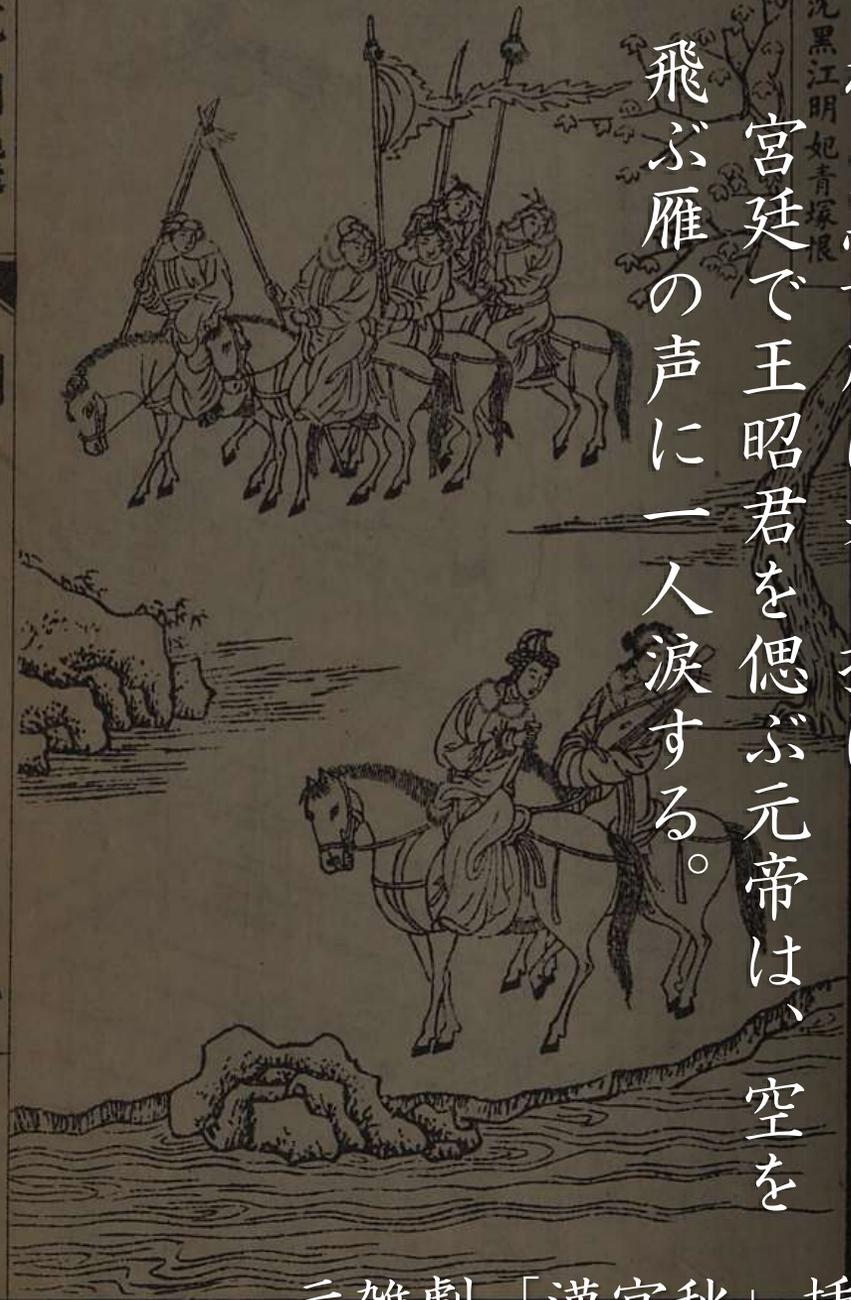
〔解説〕

元雜劇の四大家の一人である馬致遠が書いた雜劇。

漢の元帝の時代、後宮に王昭君という美しい宮女がいた。元帝は肖像画で宮女を選んでしたが、王昭君は絵師の毛延寿に賄賂を贈らなかつたため、肖像画を醜く描かれ、不遇の身でいた。しかし偶然の機会から元帝と出会い、ロマンスが生まれる。

ところが、匈奴に逃れた毛延寿が匈奴の王に王昭君の美しい絵姿を見せたため、王昭君は匈奴へ降嫁することになり、旅立つ途中、国境を流れる黒竜川に身を投げる。

宮廷で王昭君を偲ぶ元帝は、空を飛ぶ雁の声に一人涙する。



元雜劇「漢宮秋」挿絵



吉師老の詩に詠まれていた王昭君
の絵解き芸能の台本は、現存するの
か？

敦煌文書の発見

一九〇〇年、敦煌石窟(莫高窟)に暮らす王円籙という道士が、石窟(第十六窟)の甬道に、小さな石室(第十七窟)があるのを発見した。

十一世紀ごろ封印されたと考えられるこの石室には、四く十一世紀までの文書数万点が隠されていた。

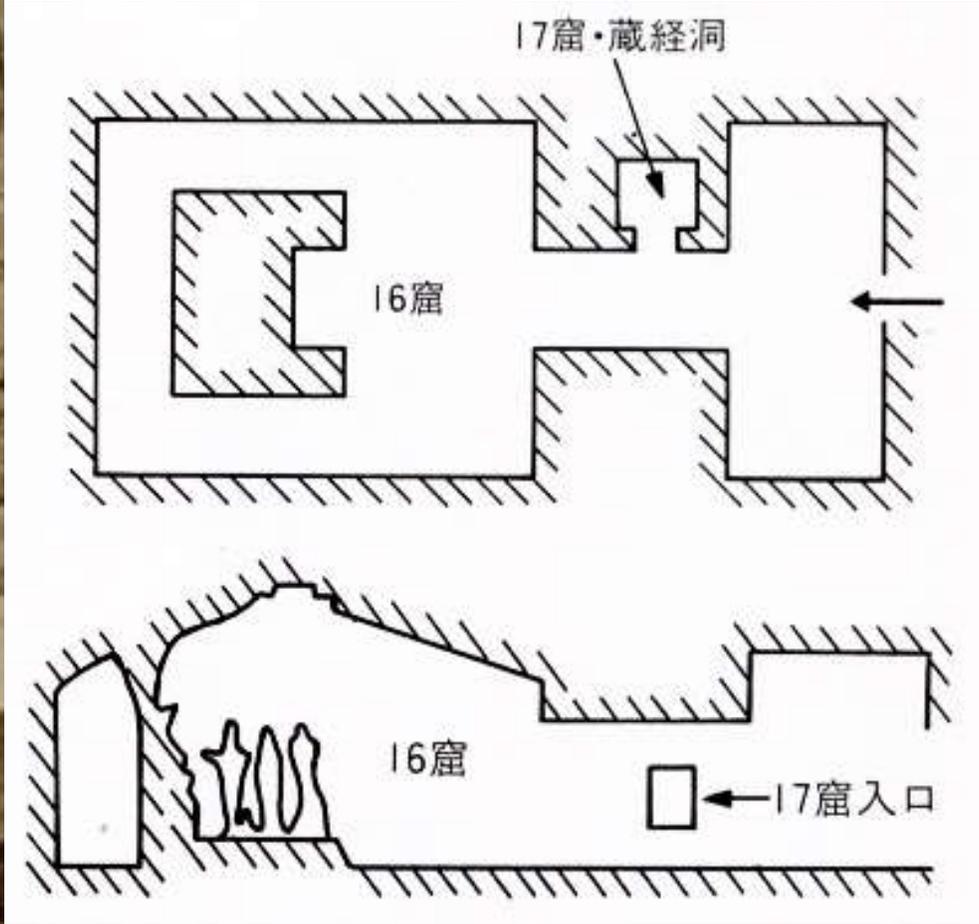
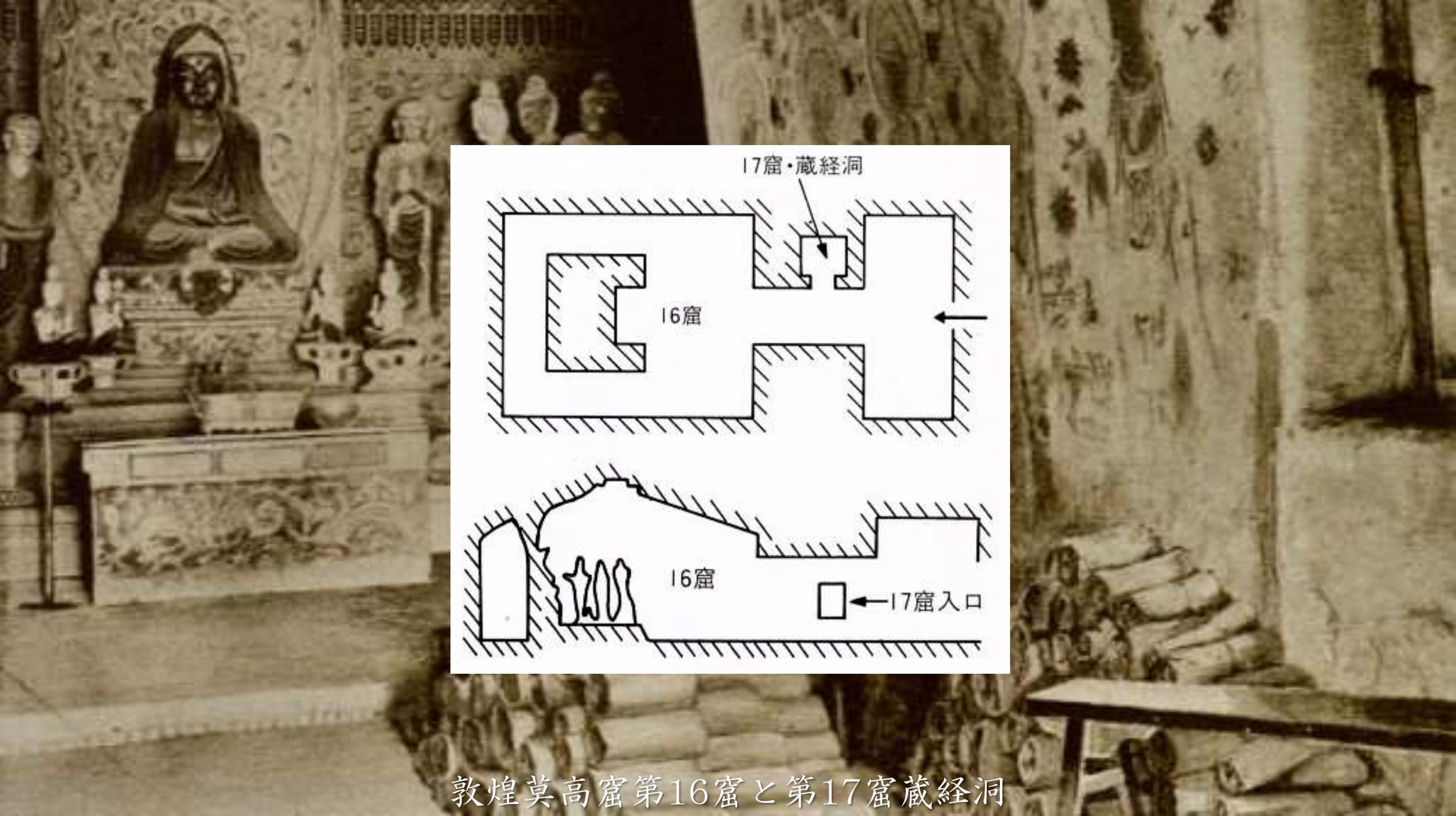
その中には吉師老の詩に歌われた王昭君の物語を語る絵解き芸能の台本「王昭君変文」も含まれていた。

敦煌石窟で大量の古文書が発見される(1900年)

清朝



敦煌莫高窟第17窟(NHKスペシャル「敦煌」(後編)より)



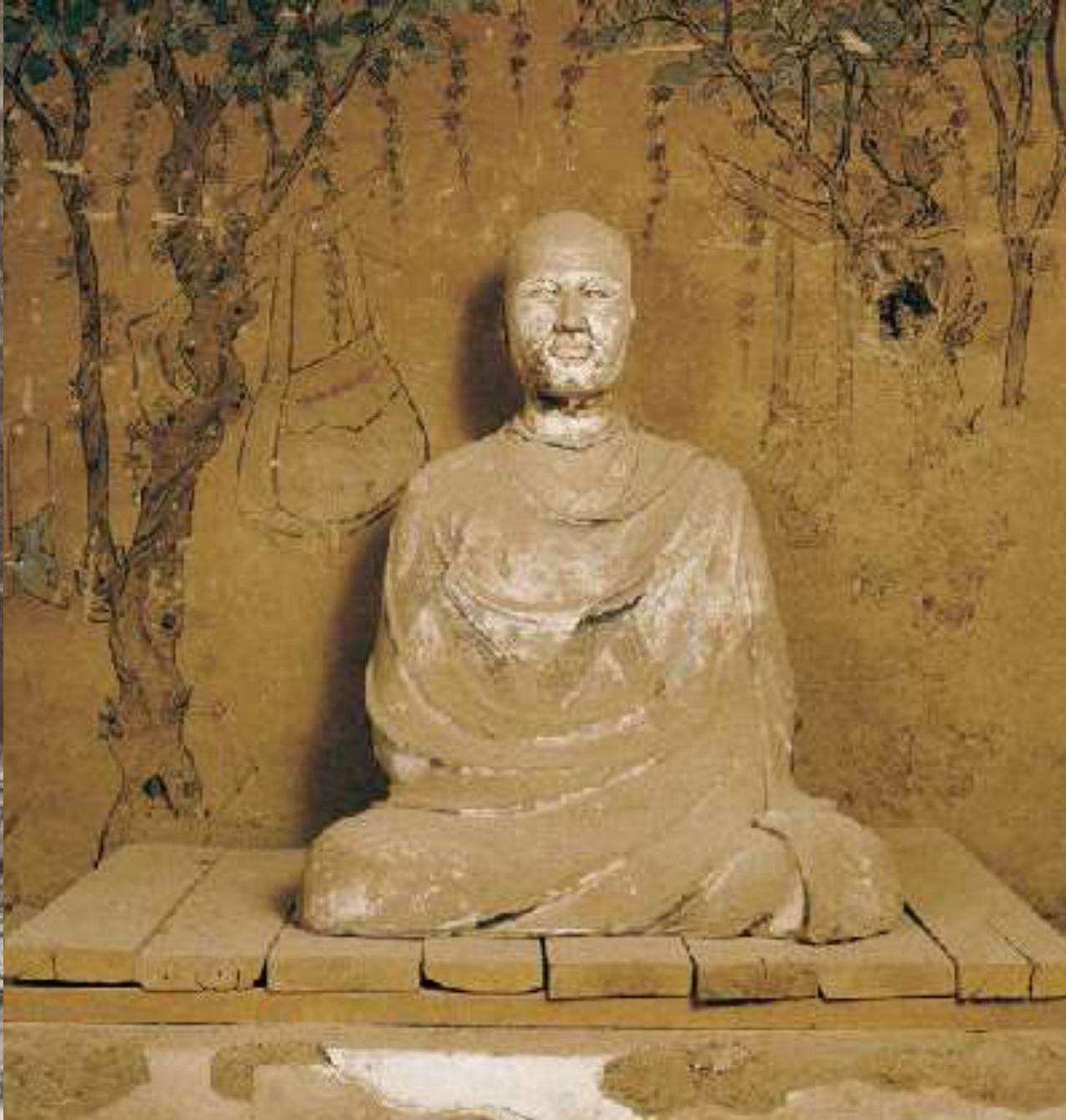
敦煌莫高窟第16窟と第17窟藏經洞



敦煌莫高窟第16窟と第17窟藏経洞



発見当初の敦煌莫高窟第17窟(蔵経洞)内部



現在の敦煌莫高窟第17窟(蔵経洞)内部

敦煌の莫高窟から発見された王昭君変文はいつごろ作られたものか？



飲食盈懷按 蒲杞滿頭罇 九米不向口 交命若何存
奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新痕
願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重記
誰能在後喪孤魂
昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山
每來日月百計尋 千般末術報令春盡命也何存可
不風燭故知主有地死有妻恰至三更火命方盡
朕却天子之服運着庶人之衣披挂暗官魁渠並至就
不離重圍部落豈敢東西日夜哀吟無由盡極慟悲切調
大明妃實若為陳說
單于昨夜子時亡 突厥今朝使使亡 二邊走馬時相
万里非書奏漢王 單于是日親臨入 莫捨須臾守府心

王昭君變文 発見された

王昭君変文の成立年代

(王昭君の)墳墓は高さ数尺
名を青塚と申します

(中略)

人がどこで生まれ、死ぬかは
すべて前世の定め

哀れ明妃(王昭君)の命は
風に吹かれた灯のように消え去り

八百余年

いまもその墓は残っておりす

王昭君変文 (P二五五三)

部落皆未傾國成儀乃葬昭軍虜若為陳說	詩書既許禮釋情	今古相傳莫不情	漢家雖道主華重
善曹不猶死葬輕	單于是日親臨送	部落皆未引仗行	
晴走能罷千里馬	草未覓取送五軍兵	牛羊隊生埋塚	
仕女慕一從身入坑	地上築墳獨未了	東下惟聞叫喚聲	
蕃家法用將者重	漢國如何輒肯行	若道可汗傾國罪	
焉知死者絕好生	黃金白玉運車載	寶物明珠盡命傾	
昔日有奉至合國葬	投料昭軍亦未平	墳高數尺呈青塚	
運道軍人為嘉名	只今葬在黃河只	西南望見受信城	
款知生有地死有室可惜明妃後風燭八百餘年墳今上			

内部徴証による王昭君変文の成立年代の推定

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
晋 265-316		
五胡十六国時代		東晋 9 317-420
北朝 439-589	南朝 420-589	
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中华民国 1912-1949		
中華人民共和国 1949-		

内部徴証

匈奴が来朝し、王昭君を関氏に迎える(BC33年)



“八百余年”

王昭君変文が作られる(西暦800年頃)

吉師老の詩「看蜀女転昭君变」

王昭君変文はどのような物語だったのか？



飲食盈懷按 蒲杞滿頭罇 九米不向口 交命若何存
 奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新痕
 願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重記
 誰能在後喪孤魂
 征昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山
 舟來日月百計尋 公千般末術報命也何存可
 不脫却天子之厭運着庶人之衣披後暗言魁渠並至號
 不離重剛部落豈敢東西日夜哀吟無由盡極慟悲切調
 大明妃實若為陳說
 將軍昨夜子時亡 突厥今朝食後亡 二邊走馬時相
 万里非書奏漢王 單于是日親臨公 莫捨須臾守府公

王昭君変文 見られた

王昭君變文(P二五五三)の梗概

〔解説〕

王昭君變文の前半部分は残欠が多いため、王昭君がなぜ匈奴の地に行くことになったのかは不明である。

しかし、後半に見える「良由画匠、捉妾陵持、遂使望断黄砂、悲連紫塞、長辞赤鼎、永別神州」(画匠にいじわるをされたため、望みは黄砂に断たれ：：)という一句から、『西京雜記』や『世説新語』が伝える伝承が、その原因として語られていたことがわかる。

飲食盈懷按 蒲袍滿頭罍 九米不向口 文命若何存
 奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新恨
 願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳事記
 誰能在後喪孤魂

徒昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
 再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜
 不風燭故知主有地死有業恰至三更火命方盡
 不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調入
 大明妃家若為陳說

單于昨夜子時亡 突厥今朝使使亡 二邊走馬將胡命
 万里非書奏漢王 單于是日親臨亡 莫捨漢史守前亡

西京雜記の中の王昭君伝説

漢の元帝は、後宮に宮女が多く、なかなか会えないため、画工に肖像画を描かせ、その絵によって宮女を召していた。

宮女たちはみな画工に賄賂を贈り、多い者は十万、少い者でも五万を下ることはなかったが、ただ王嬙(昭君)だけは賄賂を贈ろうとせず、そのため帝の寵愛を受けることができなかった。

(漢)劉歆撰(晋)葛洪集『西京雜記』第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美入爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

西京雜記の中の王昭君伝説

匈奴が朝見し、漢の美人を閼氏（匈奴の妻妾）に迎えることを求めた。

帝は絵によつて昭君を行かせることにしたが、出発の際に召見してみると、その容貌は後宮で一番。応対も善く、立ち居振舞いもあでやかであつた。

（漢）劉歆撰（晋）葛洪集『西京雜記』第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美入爲閼氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

西京雜記の中の王昭君伝説

帝は後悔したが、名簿がすでにできあがっていたため、外国との信義を重んじ、人を変えることはしなかつた。

その後、事の真相が明らかになると、画工たちをすべてさらし首にした。彼らの家財を没收すると、みな巨萬の富を蓄えていた。

(漢)劉歆撰 (晋)葛洪集『西京雜記』第二

西京雜記第二

元帝後宮既多不得常見乃使畫工圖形案圖召幸之諸宮人皆賂畫工多者十萬少者亦不減五萬獨王嬙不肯遂不得見匈奴入朝求美人爲闕氏於是上案圖以昭君行及去召見貌爲後宮第一善應對舉止閑雅帝悔之而名籍已定帝重信於外國故不復更人乃窮案其事畫工皆棄市籍其家資皆巨萬畫工有杜陵毛延壽爲人形醜好老少必得其真安陵陳敞新豐劉白龔寬並工爲牛馬飛鳥衆勢人形好醜不逮延壽下杜陽望亦善畫尤善布色樊育亦善布色同日棄市京師畫工於是差稀

王昭君變文の後半では、王昭君は匈奴に嫁いだ後、どうなったのか？



飲食盈懷按 蒲袍滿頭罽 九米不向口 交命若何存
奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新痕
願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重記
誰能在後喪孤魂
從昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山
拜求日月百計尋公千般求術報命也何存可
不脫却天子之服運着庶人之衣披後暗言魁渠並至號
不離重剛部落豈敢東西日夜哀吟無由盡極慟悲切調
與明妃實若為陳說
單于昨夜子時亡 突厥今朝使使亡 二邊走馬時相
万里非書奏漢王 單于是日親臨入 莫捨須臾守府心

王昭君變文(P二五五三)

〔梗概〕

王昭君は、单于とともに匈奴に行くが、異国の地になじむことができず、鬱々とした日々を過ごす。

单于は王昭君を喜ばせようと「煙脂」という名（実は匈奴の言葉で皇后の意）を与えて皇后に立てたり、盛大な巻き狩りを行ったりする。

しかし王昭君は巻き狩りを見物するために登った小高い嶺で、遙か遠くにある漢の地を思い出し、とうとう病にかかってしまう。

飲食盈懷按

蒲袍滿頭罽

九米不向口

交命若何存

奉管長休息

龍城水絕聞

畫眉無若擇

淚眼有新恨

願為寶馬連長帶

莫學孤蓬剪斷根

公主時亡傳重記

誰能在後喪孤魂

昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜

不風燭故知主有地死有業恰至三更火命方盡

不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調

大明妃實若為陳說

單于昨夜子時亡

突厥今朝使使亡

二邊走馬將胡命
萬里非書奏漢王
單于是日親臨
莫捨漢史守前

王昭君變文(P二五五三)

〔梗概〕

单于是「あなたが死んでしまったら、私も死にます」と王昭君の病を治そうとするが、懸命の治療も虚しく王昭君はついに帰らぬ人となる。

王昭君は匈奴と漢の国境近くに埋葬され、その墓は「青塚」と呼ばれた。

王昭君の死後、漢の哀帝は使者を送り、王昭君の墓前で追悼文を読むところで物語は終わる。

飲食盈懷按

蒲桃滿頭罇

九米不向口

文命若何存

奉管長休息

龍城水絕聞

畫眉無若擇

淚眼有新恨

願為寶馬連長帶

莫學孤蓬剪斷根

公主時亡傳重記

誰能在後喪孤魂

昨夜已來明妃漸困應為異物多不成人單于重祭山川
再求日月百計尋訪千般末術報合春盡命也何存可惜

不風燭故知主有地死有哀恰至三更火命方盡

不離重剛部落豈敢東西日夜長吟無由盡極慟悲切調

大明妃實若為陳說

單于昨夜子時亡

突厥今朝使使亡

萬里非書奏漢王

單于是日親臨

莫捨漢史守前

青塚 (内モンゴル自治区フフホト市)





青塚（内モンゴル自治区フフホト市）

成吉思汗紀念像

絵解き芸能「変文」はどのように
演じられていたのだろうか？



飲食盈懷按 蒲杞滿頭罇 九米不向口 交命若何存
 奉管長休息 龍城永絕聞 畫眉無若擇 淚眼有新痕
 願為寶馬連長帶 莫學孤蓬剪斷根 公主時亡傳重記
 誰能在後喪孤魂
 彼昨夜已奉明妃漸因應為異物多不成人單于重祭山
 舟來日月百計尋公千般末術報命也何存可
 不風燭故知主有地死有妻恰至三更火命方盡
 不離重圍部落豈敢東西日夜哀吟無由盡極慟悲切調
 大明妃實若為陳說
 聖軍昨夜子時亡 突厥今朝使使亡 二邊走馬時相
 万里非書奏漢王 單于是日親臨入 莫捨須臾守府心

変文昭君王 された見発

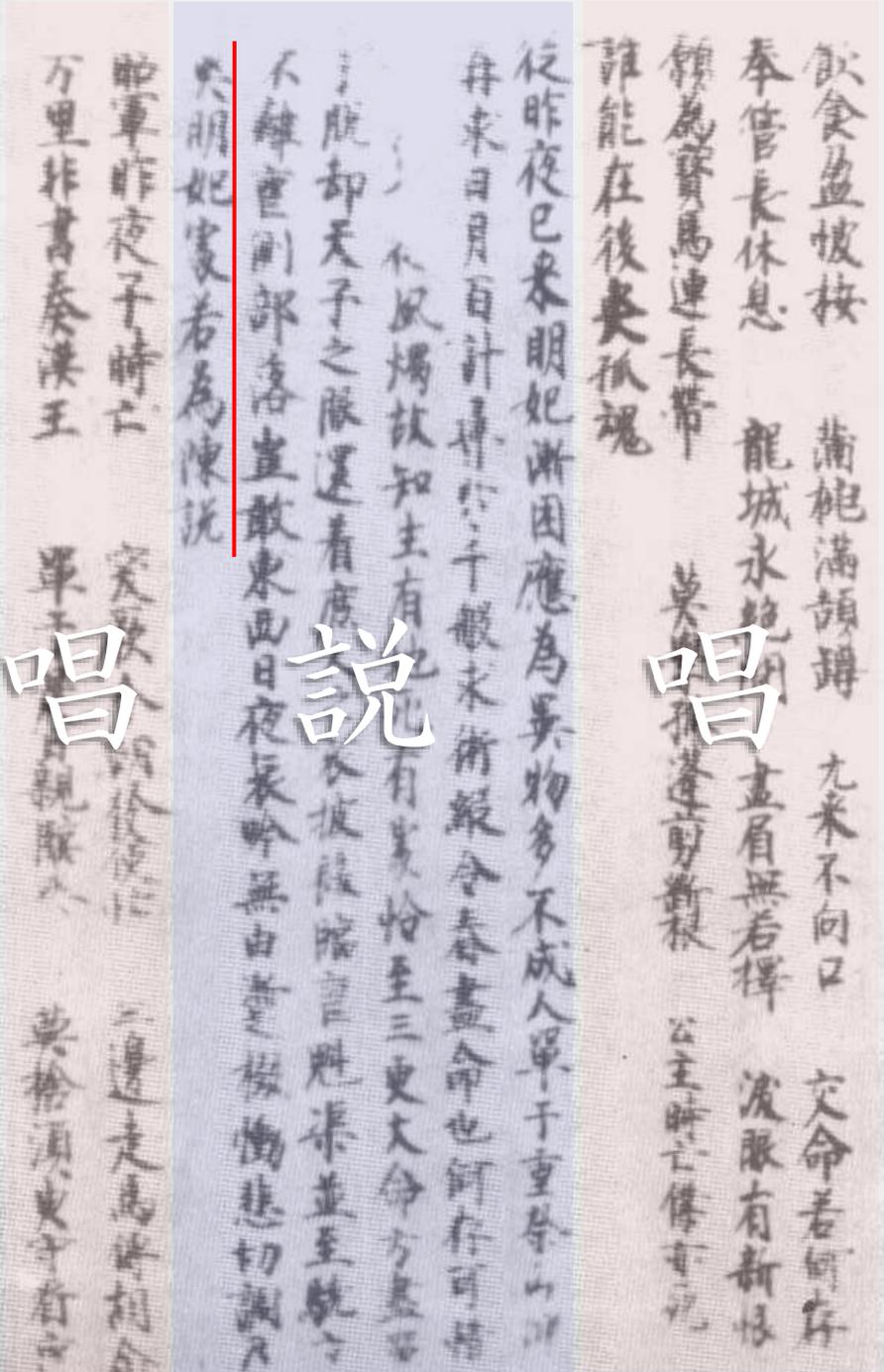
王昭君変文の形式

〔解説〕

王昭君変文は、説(散文)と唱(韻文)を交互に織り交ぜて上演されていた。

唱の部分の冒頭には「〜処、若為陳説(〜)の場面、いかなる内容かといえますと)」とあり、絵巻物を見せながら歌っていたことがわかる。

また「上巻立鋪畢、此入下巻(上巻はここで終わり、これより下巻に入る)」というト書きがあるところから、絵巻物が上下二巻から構成されていたこともわかっている。



唱

説

唱

王昭君變文（敦煌文書P二五五
三）はいまどこに？

①中国

②日本

③フランス



部落皆未傾國成儀乃葬昭君膚若為陳說
詩書既許禮釋情 今古相傳莫不情 漢家雖道去離重
善事不猶死葬輕 單于是日親臨送 部落皆未引仗行
睹走能羅千里馬 草未覽取送五軍兵 牛羊隊生埋塋
仕女哀一從身入坑 地上築墳獨去行 泉下惟聞叫喚聲
蕃家法用將為重 漢國如何輒肯行 若道可汗傾國罪
焉知死者絕好生 黃金白馬送軍載 寶物明珠盡奉傾
昔日有奉王合國葬 投料昭君亦未平 墳高數尺早青塚
運道軍人為喜若 只今葬在黃河只 西南望見受降城
款知生有地死有室可惜明妃後風燭八百餘年墳今上

敦煌文書の離散

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 9 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中华民国 1912-1949

中华人民共和国 1949-

王昭君変文が作られる(西暦800年頃)

敦煌文書の発見(1900年)

義和団事件(1900年)



義和団事件で北京の紫禁城を占領した八カ国連合軍（1900年）

海外に離散した敦煌文書

義和団事件から辛亥革命へと続く混乱の中、清朝政府には敦煌文書を保護する余裕はなかった。

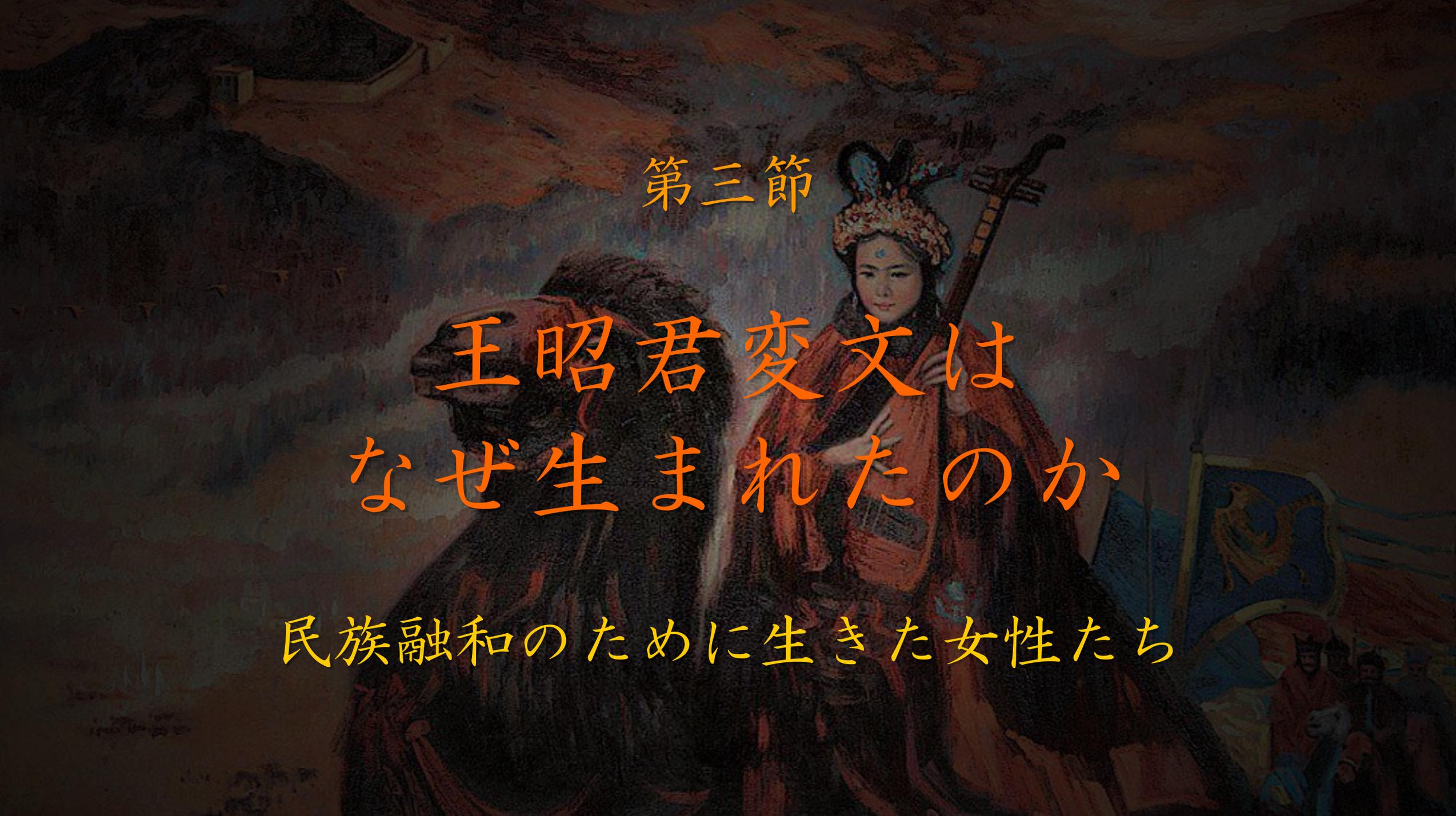
石窟内の文書や美術品は、一九〇七年にイギリスのスタイン (Sir Mark Aurel Stein)、一九〇八年にフランスのペリオ (Paul Pelliot)、一九一一年に日本の大谷探險隊、一九一四年にロシアのオルデンブルグ (Sergey Fyodorovich Oldenburg) 等によって国外に持ち出され、現在は大英図書館やパリ国立図書館など世界各地の図書館や博物館に所蔵されている。



スタイン(M.A.Stein 1862-1943)



ペリオ(P.Pelliot 1878-1945)



第三節

王昭君変文は
なぜ生まれたのか

民族融和のために生きた女性たち



王昭君変文はなぜ生まれたのか？

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 9 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

王昭君変文の時代背景

“和蕃降嫁”の時代

和蕃降嫁

和平のため姻戚関係を築くこと

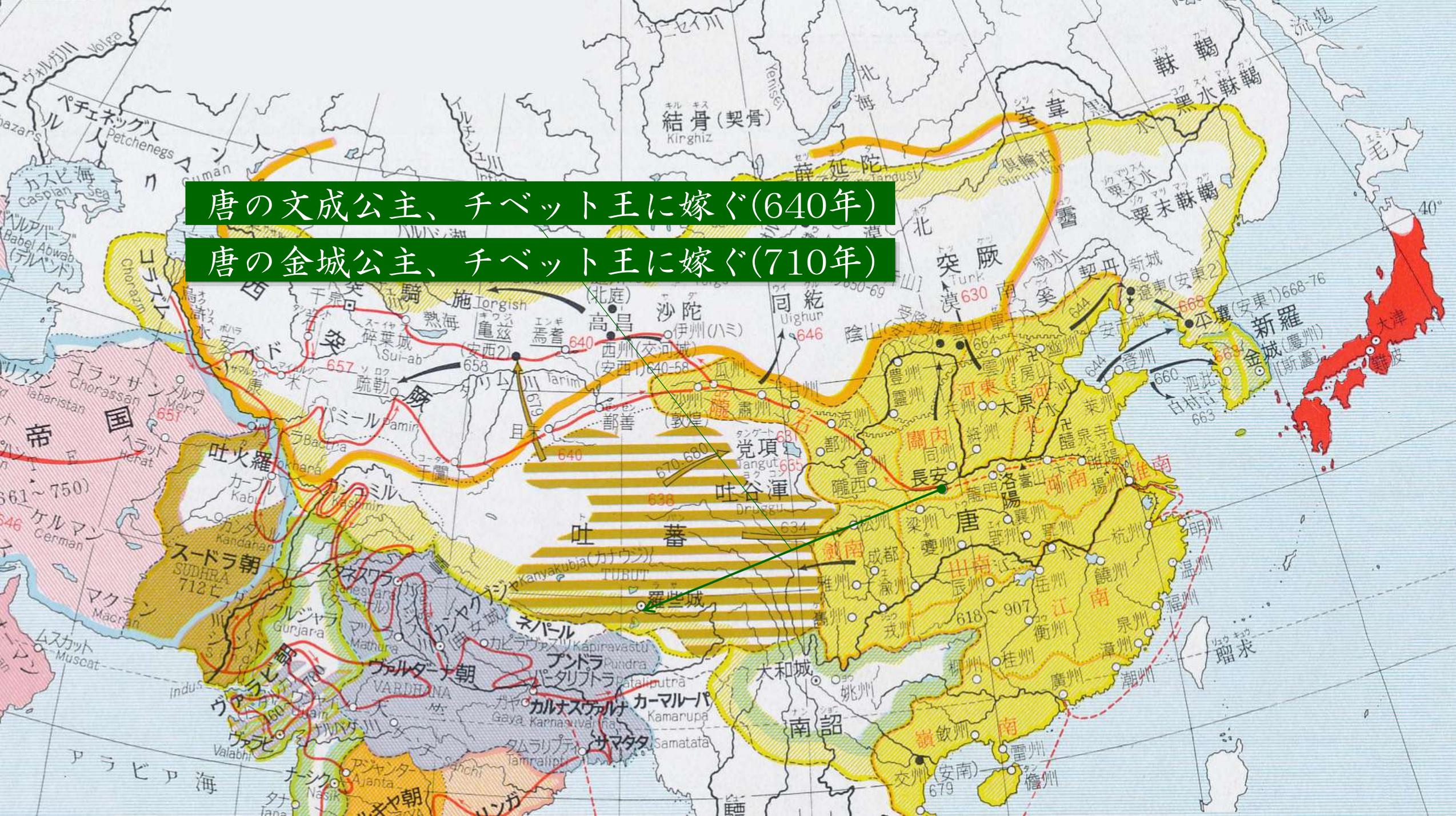
唐の文成公主、吐蕃に降嫁(640年)

唐の金城公主、吐蕃に降嫁(710年)

王昭君変文が作られる(800年頃)

唐の文成公主、チベット王に嫁ぐ(640年)

唐の金城公主、チベット王に嫁ぐ(710年)





民族間の融和に身を捧げた女性

妾聞隣国者大而小而^①、強自強、弱自弱。何用逞雷電之意氣、争烽火之声、独楽一身、苦他万姓。

私は隣国には大国もあれば小国もあり、強きものは自ずと強く、弱きものは自ずと弱いと聞いております。なぜ、雷電の意気を逞しくし、烽火の声を争い、ただ一身を楽しませるために、他の万姓を苦しめる必要がありましたでしょうか。

王昭君変文(P二五五三)

【注釈】

①王重民等編『敦煌変文集』は、この句を「隣国者大強而小弱」の誤りとする。



史実としての王昭君は、どのような女性だったのか？

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬀南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨悲日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立集

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自謂若父子相傳則烏珠留死比當立爲單于何待至與而始傳其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

王烏達鞬侯立爲單于復死弟左賢王蒲奴立爲單于比不得立

史実としての王昭君

(王)昭君、字は嬀、南郡の人である。

初め、元帝の時、良家の子女として

選ばれて掖庭(後宮)に入った。

後漢書卷八十九南匈奴列傳

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬀南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨悲日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立

集解通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自謂若父子相傳則烏珠留死比當立爲單于何待至與而始傳其子也遂內懷猜懼庭會稀闊單于

疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

史實としての王昭君

そのころ呼韓邪単于が来朝したの

で、帝は宮女五人を下賜することに

した。

昭君は後宮に入って数年が過ぎて

いたが、帝にお目通りする機会もな

く憂鬱な日々を送っていたため、掖

庭令に匈奴行きを願い出た。

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬀南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨悲日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前閼氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于閼氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立

集解通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟

知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自

謂若父子相傳則烏珠留死比當立

爲單于何待至輿而始傳其子也

遂內懷猜懼庭會稀闊單于

呼韓邪單于の歡送の宴に、帝は五

人の宮女を呼んで單于に会わせた。

美しく、あでやかに着飾った王昭

君の姿が、漢の王宮を輝かせ、宮廷

内は騒然となった。

帝も大變驚き、宮中に留めたいと

思ったが、信義を失うわけにはいか

ず、匈奴に嫁がせた。

史実としての王昭君

略鈔掠甚眾北邊無復寧歲言緣邊之郡無安寧之歲初單于弟右谷蠡王伊

屠知牙師谷音鹿蠡音離集解惠棟曰呂次當左賢王左賢王即

是單于儲副單于欲傳其子遂殺知牙師知牙師者王昭君之子

也昭君字嬀南郡人也前書曰南郡秭歸人集解惠棟曰蔡邕琴操云齊國王襄女也與傳異初元

帝時呂良家子選入掖庭時呼韓邪來朝帝敕呂宮女五人賜之

昭君入宮數歲不得見御積悲怨乃請掖庭令求行集解惠棟曰琴操云單于

遣使者朝賀元帝陳設倡樂乃令後宮粧出昭君怨悲日久不得

侍列修飾善粧盛光輝而出俱列坐元帝謂使者曰單于何所願

樂曰珍奇怪物皆悉自備惟婦人醜陋不如中國帝乃問後宮欲

至單于者起于是昭君喟然越席而言曰妾幸得備在後宮粗醜

卑陋不合陛下之心誠願往王懋云如琴操所言則單于使者呼

來朝非單于來朝也昭君在帝前自請行非因掖庭令求行也呼

韓邪臨辭大會帝召五女呂示之昭君豐容靚飾光明漢宮願景

裴回竦動左右帝見大驚意欲留之而難於失信遂與匈奴生二

子及呼韓邪死其前闕氏子代立欲妻之昭君上書求歸成帝敕

令從胡俗遂復爲後單于闕氏焉比見知牙師被誅出怨言曰呂

兄弟言之右谷蠡王次當立呂子言之我前單于長子我當立

通鑑胡注呼韓邪單于約其諸子以兄弟次相傳單于與殺其弟知牙師而立其子亂呼韓邪之約而此則烏珠留之長子也比自

史實としての王昭君遂內懷猜懼庭會稀闕單于

王烏疑之乃遣兩骨都侯監領比所部兵二十二年單于與死子左賢

韓邪單于が亡くなると、前の闕氏①の

子が後を継ぎ、王昭君を妻に迎えよ

うとした②。

王昭君は漢に上書して帰国を願

い出たが、成帝は匈奴の習俗に従うよ

う命じ、新しい単于の闕氏となつた。

後漢書卷八十九南匈奴列傳

【解説】

①闕氏(えんし)・漢代の匈奴の単于の正室の称号

②匈奴社会では、女性は夫の死後、その兄弟や義理

の息子と結婚する Levirate 婚の習慣があつた



実際の王昭君は自らの意志で異国行きを決断し、
現地の習俗に従って逞しく生きた女性であった。

左国順画「昭君出塞」



王昭君のような政略結婚は、日本でも行われたが、いつごろまで行われていたのか？

① 戦国時代

② 江戸時代

③ 昭和



朝鮮の李王世子・李垠(이은)と
梨本宮家王女・方子結婚
1920年4月28日



李王世子殿下と梨本宮
方子女王殿下



●李王世子の御慶事
▽梨本宮方子女王殿下と婚約御内定

昌徳若宮李王世子垠殿下將來の妃殿下は梨本宮方子女王殿下と御内々に決定したり王世子の御慶事は故伊藤博文公が規畫し寺内總督に對しても

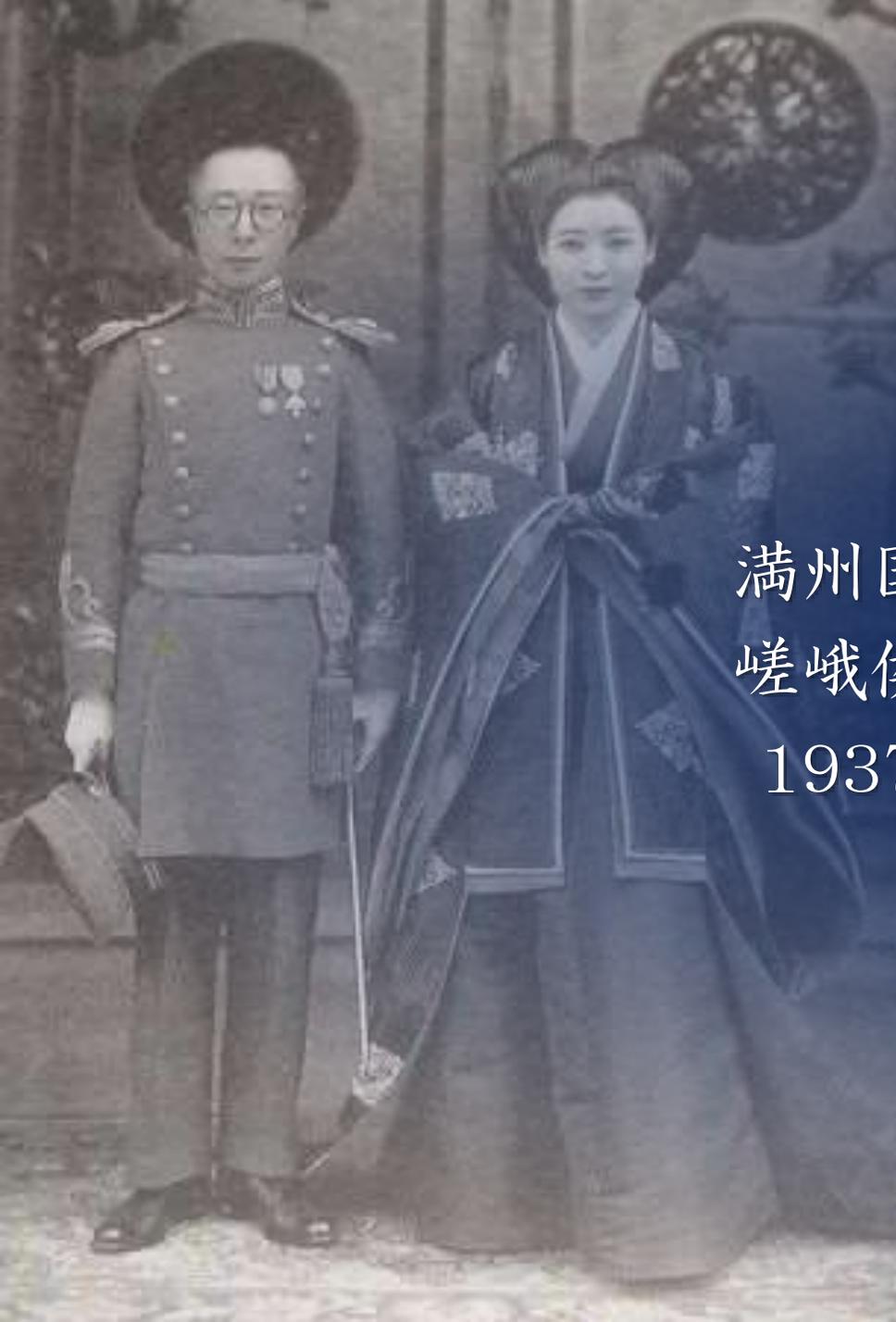
▲其事情を含 めたることあり將來妃殿下を定めたまふ時にさて夫れさなく皇族方より候補者を内々選定に取りかかりたる折稱梨本宮守正王殿下第一御方子女王殿下をこそこいふ話し或筋に起り梨本宮守正王妃伊都子殿下の御里方嫡孫侯爵家にて王人直大侯同夫人榮子刀自又夫人の令兄

家からついでに之に進んだ丈である事迄は事柄にありますが何しろ李王世子殿下は現在學中である事であるから

▲使用人等に 向つて糞便検査、健康診断を行ひ長濱消毒所への通路には關所を置き注意し布哇丸の破裂せる岸壁八號附近並に市内海水浴場附近の海水を酌み取り菌の有無を検査し若し有らば一時閉鎖を命ずる事ありべし云々尙縣にては豫防の爲め總務、健診、検査、消毒、交通遮断の五部署を定め手落ちながらん事を期し居れり云々

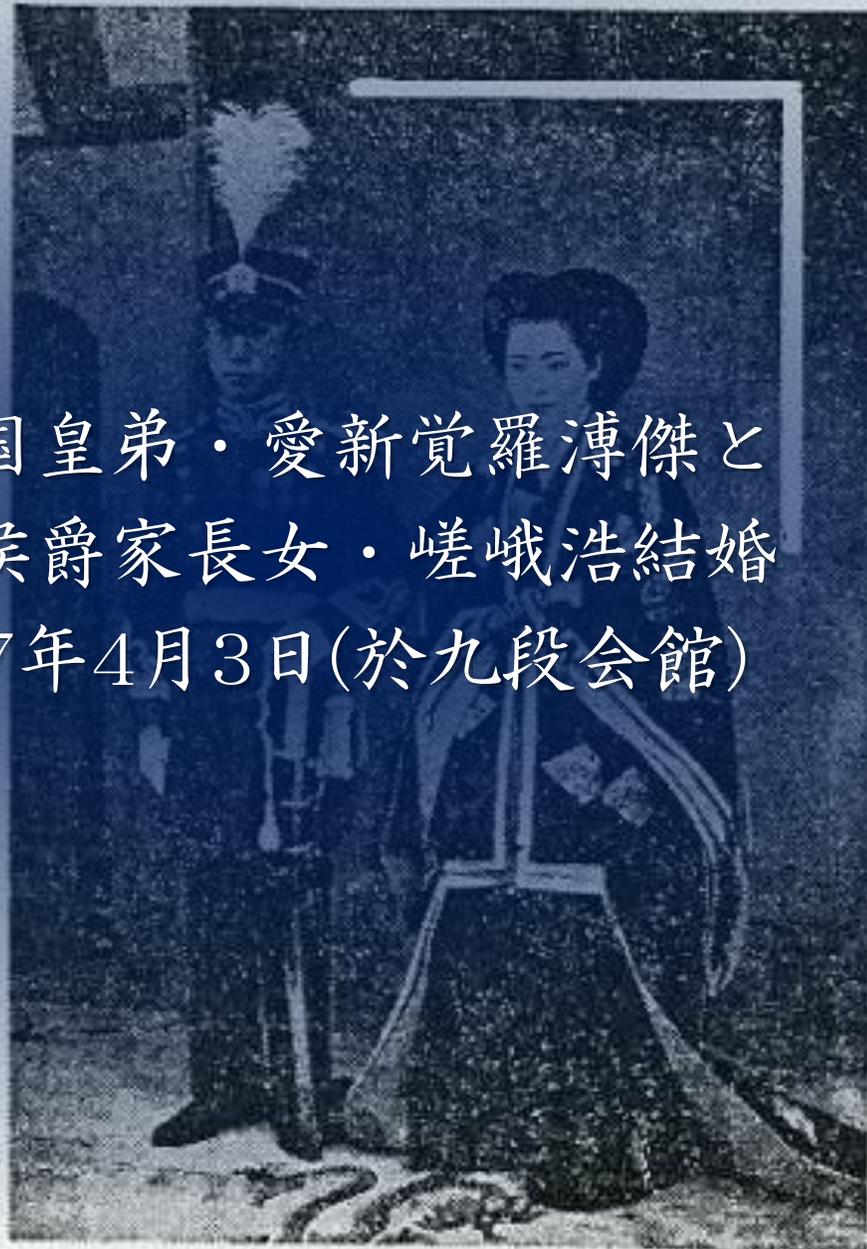
●看護婦會の弊

横濱市に發生したるコレラは午後二時



満州国皇弟・愛新覚羅溥傑と
嵯峨侯爵家長女・嵯峨浩結婚
1937年4月3日(於九段会館)

日 満 親 善 の 春



昨日溥傑氏と御結婚

皇帝御喜びの敕諭 桂袴美々し浩姫

昭和十二年四月三日の午後三時から九段軍人会館で本庄大尉夫妻の嫁入りで既婚に行はれ、特に満州国皇弟下の御喜びは非常なもので披露を執はつた、終つて同六時から引續き同館で賜された宴會には竹田宮、皇弟出陣下の皇臨あり、日皇御臨水鏡の儀、誠に祝賀の聲を聞く御座であつた(写真には溥傑氏と浩姫)



朝鮮王世子・李垠(이은 1897-1970)



梨本宮家王女・方子(1901-1989)



6:00

NHK BS1 「韓国之母になった日本人—李方子」



政略結婚させられた梨本宮方子は、
その後どのような人生を歩んだのか



朝鮮王世子・李垠(이은 1897-1970)



梨本宮家王女・方子(1901-1989)



NHK BS1 「韓国之母になった日本人—李方子」

まとめ

■南北朝時代、経典が東アジアの共通語である漢語に翻訳されたことにより、仏教は東アジアの世界宗教となった。

■仏教とともに西域から伝わった絵解き講釈は、「変文」と呼ばれる新たな庶民文学を誕生させた。

■一九世紀の末、シルクロードの敦煌石窟の中から、変文を含む数万点におよぶ古文書が発見された。その中から「王昭君変文」などの民間の絵解き芸能の台本が発見された。

■「敦煌文書」と呼ばれるこれらの文書は、義和団事件などの混乱の中、海外に四散し、現在は大英図書館、パリ国立図書館など世界各地の図書館や博物館に所蔵されている。

参考文献

- 東山健吾他 『敦煌ものがたり』（新潮社一九八九年）
- 入矢義高編 『中国古典文学大系六〇 仏教文学集』（平凡社一九七五年、変文の翻訳九編を収録）
- 堀江恭子 『敦煌変文 「王昭君変文」 『明妃傳』の研究』（白帝社二〇〇八年）
- 王重民原編・黄永武新編 『敦煌古籍叙録新編』（新文学出版公司一九八六年第十七冊集部三に王昭君変文の原本写真を収録）
- 黄征・張涌泉 『敦煌変文校注』（中華書局一九九七年、諸家の校注を集大成したもの）